■人間科学専攻修士課程研究指導者一覧

准教授　青山　鉄兵

専門領域　社会教育学、青少年教育論

研究内容

青少年を対象とした学校外教育、とりわけ、青少年の体験活動の支援のあり方について関心を寄せてきた。体験活動の方法としての小集団活動や、体験活動の舞台となる青少年教育施設・団体のあり方などを中心に、さまざまな実践と関わりながら研究を進めている。

教授　秋山　美栄子

専門領域　高齢者心理学、看護学、高齢者福祉

研究内容

高齢者を中心に医療・看護・福祉、心理、教育に関する研究や実践活動を進めてきた。

現在は特に、高齢者の心理学的適応に関する研究、高齢者ケアに関わる専門職の態度に関する質的研究、家族の介護負担の研究、介護保険の認定審査やケアプラン指導、地域ケアのあり方などのテーマに取り組んでいる。

教授　石原　俊一

専門領域　健康心理学、生理心理学

研究内容

怒りの表出性やタイプDパーソナリティを中心とする疾患患者の心理・社会的特徴および疾患発症メカニズムにおける心理的要因と免疫学的要因との関連性に関する基礎的研究をはじめ、心理・運動・栄養的側面も総合的観点から心疾患患者の生活習慣変容に関する応用的研究も行っている。

教授　大木　桃代

専門領域　健康心理学、医療心理学、人格心理学

研究内容

がんや様々な慢性疾患患者及びその家族に対するカウンセリング活動を通し、身体疾患患者への心理的サポートに関する実践的研究を進めている。また心理学的視点から、最先端臨床研究における医療倫理に関する研究も行っている。患者の人生観や価値観を尊重し、QOL向上のための研究と実践を心がけている。

教授　大塚　明子

専門領域　文化社会学

研究内容

文化と社会の関係、特に近代日本の大衆文化や若者文化が専門。マンガ・音楽・ファッション・雑誌などを資料として主に質的分析を行い、日本人の社会観・対人関係・倫理観など変容について歴史的・比較文化的な視野から考察を行っている。

教授　金藤　ふゆ子

専門領域　社会教育学、教育社会学、生涯学習学

研究内容

生涯学習関連施設の学習プログラムの開発とその規定要因の関係解明を目的とする研究を進めてきた。近年は、青少年を対象とする放課後プログラムの開発とその評価、学校・家庭・地域の連携による教育の効果の検討、学校を場とする放課後支援の国際比較について、教育調査を基に研究を行っている。

教授　鎌田　晶子

専門領域　消費行動心理学、社会心理学、実験心理学

研究内容

消費行動心理学：消費者の意思決定や選択行動について、心理学実験・調査の手法を用いて研究を行っている。最近では、高齢者の買い物における行動や心理についても研究を始めている。

社会心理学：主として日常生活における様々な認知バイアスについて関心を持っている。特に、他者認知における自己中心性のバイアスについての研究に取り組んでいる。

教授　神田　信彦

専門領域　青年心理学（学童期～青年期）、社会心理学・人間科学

研究内容

自己に関わる諸概念のうち主に自己意識や時間的展望をキーワードとしてそれらとさまざまな行動との関係を検討している。

最近では、生きがいをキーワードに加え、青年期の人の生きがいと、時間的展望や肯定的感情経験や否定的感情経験との関連の研究を行っている。また、生きがいという語が時代時代でどのように扱われてきたかを諸資料にあたることで検討を行っている。

教授　城　佳子

専門領域　健康心理学

研究内容

現代社会では、世代を問わず誰もがストレスを感じながら生活している。ストレスが健康に及ぼす影響が指摘されており、健康な生活のためには適切なストレスマネジメントが不可欠である。誰でもいつでも自分で簡単にストレスマネジメントが出来ることを目的として研究を進めている。基礎的な研究に基づいて実際に教育場面や一般の人々の健康の維持増進に貢献することを目指している。

教授　関井　友子

専門領域　臨床社会学、ジェンダー論、家族社会学

研究内容

現在の研究テーマはアディクション（アルコール依存症や共依存）、ドメステック・バイオレンス、ジェンダーとセクシュアリティナラティヴ・プラクティスと自助グループなどがあげられる。

教授　田積　徹

専門領域　学習心理学、行動学的神経科学

研究内容

これまでは恐怖の古典的条件づけを担う神経機構や社会的認知における扁桃体ニューロンの情報処理様式について研究してきた。現在は、条件づけにおける刺激競合事態において、一方の刺激に対する学習の阻害や促進は連続体であるという前提のもと、いずれが観察されるのかを決定する要因を調べている。具体的には、空間学習事態において、ランドマーク手掛かりが幾何学的手掛かりの学習を隠蔽もしくは増強の出現に重要な要因を調べている。

教授　中村　博一

専門領域　文化人類学・社会人類学・日本研究・西アフリカ研究

研究内容

1）ハウサ語圏（ナイジェリア北部～ニジェール南部）のメディア文化およびテロリズムや呪術との関係性についての考察。
2）西アフリカにおける日本食材の現地化についての考察。
3）日本国内（中部地方）の自治消防の研究、消防団活動からみえる地域の問題系の考察。
4）ハウサ語研究用電子辞書の開発とマネジメント。

准教授　二宮　雅也

専門領域　スポーツ・健康・身体社会学、地域活性論

研究内容

社会学的な観点から、スポーツ文化の発展と人間生活の豊かさを健康や地域づくりの観点から研究している。特に、スポーツ・健康領域において活動を実践している非営利活動組織（NPOやボランティア）活動と地域活性について注目している。

教授　星野　晴彦

専門領域　障害者福祉、社会福祉サービス運営論

研究内容

有意義な社会福祉のサービスを、支援を必要とする人々に提供するためには、サービスを提供する組織・機関のあり方について考慮する必要がある。個々の援助職員の技術論で終始すべきではない。目下そのような視点から、社会福祉サービス提供機関が本来のミッションを果たせるようにするには、どうすべきかをドラッカーのマネジメント理論より検証することを試みている。

准教授　堀口　久五郎

専門領域　社会福祉学

研究内容

社会福祉学という上位概念に対する児童、高齢、障害等の対象者別分野や地域福祉、医療福祉、精神保健福祉、福祉教育等の専門的分野として捉えられる下位概念との実践的・理論的関係等について関心がある。

教授　益田　勉

専門領域　産業・組織心理学、キャリア発達論、キャリアカウンセリング

研究内容

組織内人材開発、組織開発、人事管理、キャリアマネジメントなどを研究の主領域としている。個人の欲求と組織の要請を調和させながら、個人が生き生きと働くことができる職場環境をどのように実現するかが最終的なテーマである。

准教授　増田　知尋

専門領域　知覚心理学

研究内容

視知覚と映像表現に関する研究を主として行っている。特に、食品の鮮度、かたさ、やわらかさなどの品質や材質などの視覚的判断に関する研究を中心に、情報の表現技法と人間の認識の関連についての研究に取り組んでいる。

教授　宮下　毅

専門領域　医事法、生命倫理学

研究内容

医療および生命倫理にかかわる問題について、法学の立場から、研究を行っている。特別な配慮を要する人々（vulnerable people）の医療の決定のあり方を主要なテーマとし、より具体的には、生命維持治療の中止に関する決定、医師に幇助された自殺、障害者に対する特別な医療の決定などについての研究に取り組んでいる。

教授　宮田　浩二

専門領域　スポーツ心理学、ウエルネス学

研究内容

スポーツが精神的健康、いわゆるメンタルヘルスに及ぼす有効性は、数多くの研究において知られている。そこで、スポーツがいかに人間の行動に関わっているのか、心と身体の関連に焦点をあてて、スポーツ心理学及びウエルネスライフとの観点から研究をしている。

准教授　村上　純一

専門領域　教育行政学、現代学校教育論

研究内容

学校教育に関する制度・政策を中心に、主として教育行政・教育制度の研究を行う。キャリア教育の政策過程、学校と地域社会との連携・協働、教育行政と他行政分野との連携、震災・復興と学校教育などをテーマとし、政策文書や会議録などを用いた質的研究を主に行う。

教授　森　恭子

専門領域　国際社会福祉、地域福祉

研究内容

国際社会福祉領域では、主に移民・難民への福祉政策やソーシャルワーク実施のあり方を研究している。関連するNPO団体と連携を図り、実証的な研究を行っている。地域福祉領域では、市町村の地域福祉計画の策定・推進における地域住民への福祉教育や参加のあり方について研究している。実際の計画策定に携わりながら、研究と実践活動の両方に取り組んでいる。

■人間科学専攻修士課程授業科目の概要

授業科目の名称	担当者	授業科目設定のねらいと概要
人間科学特論	神田　信彦	この授業では、「科学」とは何であるか、「人間」とは何であるかを再考し、それらを基に「人間科学」とはどのようなものであり、何を目指しているのかを考える。次いでなぜ「人間科学」であるのかを検討していく。さらに人間科学を構成する諸領域の中から心理学、社会学などを取り上げ、それらが人間やその営みをどのような観点や方法によって研究し、理解を進めようとしているか示していく。最後に特定のテーマを取り上げ人間科学の諸領域それぞれからどのように捉えることができるのか、それらの総合化は可能であるのかを検討する。
人間科学研究法Ⅰ	星野　晴彦	以下の2点を理解することを目的とする。 ・人間科学の研究を始めるにあたり、研究倫理に関して学ぶ。特に、調査協力者の人権を擁護することの重要性を学ぶ。 ・研究方法として、質的研究法を学ぶ。様々な研究方法を整理した上で、それぞれの方法を用いた論文を読む。 また、講座の中では、理論的な学びと共に「お互いにインタビュー」「研究倫理審査申請書の記載」「質的調査のワークショップ(KJ法)」などの体験的学習を通して実態的に学ぶ。
人間科学研究法Ⅱ	益田　勉	心理学、社会学、教育学などの研究においては、データ収集とその数量的な解析が欠かせない場合が多い。この授業では、さまざまな心理的・社会的現象に関するデータ収集の方法と統計解析の基本的な考え方と方法を学ぶ。併せて統計解析ソフトSPSSの基礎的な活用ができるようになることを通じて、人間科学における量的研究の基礎を修得する。
健康と疾患の心理学	石原　俊一	健康心理学とは、健康の維持と増進、疾病の予防と治療などについての原因と対処の心理学的な究明、及び健康教育やヘルスケアシステム、健康政策の構築などに対する心理学からの貢献をめざす学問である。健康心理学における疾病とは、必ずしも精神疾患を指すものではなく、むしろ、心疾患、ガン、糖尿病などの生活習慣病を対象とすることが多い。本講義では、これらの身体的疾患の発症メカニズムを理解した上で、健康心理学的なアプローチについて概説する。

多様な学問に触れ、議論できる機会

私は、文教大学人間科学部臨床心理学科の学部生として越谷校舎で４年間学びました。心理学の勉強を続けていく中で、心理学をより詳しく学ぶと同時に他の学問領域の知識も身に付け、多角的な視点から物事を考えたいと思うようになりました。そして、様々な学問を学び、広い視野で物事を考えることができる人間科学専攻への進学を決意しました。大学院では少人数で講義が展開され、他の院生と１つの事柄について活発に意見を交換し合い、新しい考えや多様な視点から物事を考える機会が得られます。また、研究指導では、先生が１対１で指導してくださり、深く学ぶことができとても充実しています。このような素晴らしい環境で学べることに感謝し、将来に生かしていきたいと思います。

人間科学研究科　人間科学専攻修士課程２年
天谷　葵 さん

授業科目の名称	担当者	授業科目設定のねらいと概要
ビジネスの心理学	鎌田　晶子	消費者心理学に関連する文献の講読を中心に据えて学習し、日常生活における意思決定やリスク判断についての理解を深めることを目的としている。受講生には、初回授業で提示した範囲の中で、自身の興味・関心に基づいてテーマを選択するよう求める。心理学の経済活動への応用について、幅広く議論する。
実験心理学特論	田積　　徹	この授業では、主に実験法によって研究が進められている学習・記銘・生理心理学などの専門領域の専門書・実験論文を精読していく。大学院では各専門領域で研究が進められているさまざまなテーマの深化した体系に触れ、自分の修士論文の研究をその体系に位置付けていくことが求められる。このことは学習・記憶・生理心理学といった専門領域に限らず、他の専門領域においてもある程度共通していると思われる。したがって、上記の専門領域につ いて学部で学んだ概論的な知識に基づいて専門曹・実験論文を精読し、精読したテーマに関係する実験を遂行する体験を通して、各自の修士論文の研究を位附ける作業に役立ててもらう。
ストレスの心理学	城　　佳子	健康心理学は、現代社会における健康をめぐる環境の変化に応える形で近年発展してきた心理学の応用分野である。中でもストレスはその主要な研究テーマであり、心理学的な観点からストレスにどのように対処して、心身の健康状態の維持、増進に寄与できるかが重要な課題となっている。この授業では、心理学的ストレス理論を理解し、パーソナリティや認知的要因などの心理的諸要因とストレスとの関連を検討することを目的とする。具体的には、ストレスに関連するいくつかのテーマを選択し、文献を用いて討論したうえで、研究を実践して日常生活に応用可能な知見を広げる。
生涯学習特論	金藤　ふゆ子	この授業では、生涯教育の中でも特に成人教育に着目し、近年の成人教育論の理論的検討と、実証的研究に基づく成人学習者の理解を目的とする。具体的には、成人学習者の特性、成人学習者の学習課題、成人の特性を生かした学習支援のあり方、成人の学習成果の評価と活用などの諸問題について検討を行う。ここでは国内外の調査研究や、学術論文も教材として活用し、成人教育の諸問題を多角的に分析・検討する。受講生自らが成人学習者であることから、適宜、討議の機会を持ちながら授業を展開したい。
子ども・若者活動支援特論	青山　鉄兵	現代社会における子ども・若者の生育環境に関する基本的な文献の講読を行うことを通じて、今後の子ども・若者支援をめぐる論点について検討することが本講義の目的である。具体的には、①子ども・若者の家庭環境や学校・地域における人間関係、メディア環境等の変化と、②子ども・若者支援に関わる実践（理念、制度、方法、支援者等を含む）をめぐる問題の双方に焦点を当てながら、現代社会における子ども・若者支援について、主として学校外教育の観点から考察する。
学校教育特論	村上　純一	学校は「社会を映す鏡」と言っても過言ではない。学校教育で扱われる内容には、その時代の社会のあり方が色濃く反映されている。学校で起こる問題には、社会で起こる問題が先鋭的に表れているものも少なくない。そもそも、子どもたちにとっては「学校に通う」ということが「社会を知る」ことの最初の機会であるともいえる。 この授業では文献講読を中心として、今日の学校教育に関する諸問題を演習形式で考え、理解を深めていく。
コミュニティ活性化特論	二宮　雅也	近年、人口減少や少子高齢化の影響により地方都市の衰退が進むなか、地方都市の再生を目指したさまざまな取り組みが行われている。国は、「地方創生」というキーワードのもと、内閣府地方創生推進事務局や内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が中心となり、各施策を進めている。また、各地方都市では、地域住民が主体となった取り組みも数多くある。この講義では、全国で展開される地域活性に関する取り組みのケーススタディを通じ、その形式や形態、さらには成果について学習することを目的としている。
スポーツ・ウエルネス特論	宮田　浩二	今日のスポーツの普及にはめざましいものがあり、スポーツを行う人々のスポーツに託する思いは、実に様々である。また、スポーツとは、世界共通の文化であり、コミュニケーション手段として行われている。 そこで、スポーツ・ウエルネスの観点から、私たちがより幸福でより充実した人生を送るためにはどうしていけばよいのか、スポーツによって築かれるウエルネスライフのあり方等について、興味や関心を高めて実践していくことが目的である。
高齢者健康援助特論	秋山　美栄子	さまざまな老後の問題について社会・文化的背景を考えながら、高齢化時代における健康について考察する。身体的な健康の側面として、生活習慣病をはじめとする高齢者に多発する代表的な疾患について、医療と福祉の視点からインフォームド・コンセント、自己決定、介護予防などQOLとの関連を追及する。また、心理的な健康の側面として、ストレスなどを中心に高齢者を取り巻く家族形態や生活・社会環境の中から、生きがい、喪失体験、死などをテーマにQOLを向上させ得る要因について検討し、考察を深める。

充実した学びの環境

私は文教大学人間科学部人間科学科の学部生としてこの校舎で４年間学びました。その学びの中で世の中の１つ１つの出来事を様々な視点から見つめなおし、アプローチしていく人間科学部の考え方に魅力を感じ、より学びを深めたいと考え、進学を決意しました。大学院では少人数で講義が展開されるため、魅力的な先生方のもとでより深く学ぶ機会が得られます。また、研究指導においても１対１で丁寧に指導してくださるので、とても充実しています。このような素晴らしい環境で学べる事に感謝し、研究者として、１人の人間として、力をつけることで将来に生かしたいと考えています。

人間科学研究科　人間科学専攻修士課程２年
渡部　啓亮 さん

授業科目の名称	担当者	授業科目設定のねらいと概要
多文化共生ソーシャルワーク特論	森　　恭子	グローバル化により日本国内の外国人数は増加傾向にあり、滞日外国人およびその家族をめぐるさまざまな福祉問題が起こっている。一方、移民・難民を受け入れてきた諸外国においては、彼らと自国民との摩擦や治安の悪化などが拡大し社会問題化している。本特論では、外国人、移民、難民などの異なる文化背景をもつ人たちとの多文化共生社会の中で展開されるソーシャルワークのあり方について、文化的コンピテンス、ソーシャルキャピタル、社会的結束、社会統合などの概念を踏まえ検討する。
児童福祉特論	関井　友子	Ph, アリエス『＜子供＞の誕生』を題材に、近代社会の子どもへの眼差しを理解し子どもを取り巻く諸問題を考察する。
ソーシャルワーク特論	堀口　久五郎	わが国の社会福祉学研究の古典および海外の原書講読を中心に文献講読を行う。取り上げる内容は、当該年度の受講生の関心領域に応じて対応する。
家族・ジェンダー・セクシュアリティ	関井　友子	家族やジェンダー及びセクシュアリティなどの現代社会の具体的な現象から社会構築主義的思考様式を学ぶ。
社会学演習	大塚　明子	近代～現代の日本社会における価値観の変容、特に欧米の個人主義の日本的受容という問題を大きなテーマとし、多方面からアプローチしていきたい。まず従来数多く出版されてきた日本文化論・日本人論を批判的に検討する。他にも受講者の関心に応じて、家族（特に親子関係観）、学校、近代文学、大衆文化や若者文化など、様々な資料を取り上げることを考えている。
文化人類学演習	中村　博一	現代は、多様な文化の主張が人間理解の障害や人間の選別化につながりうる事態を生じさせている。また、多様な文化をとりこんでそうした主張がなされる事態も珍しくない。本演習では文化領域と人間科学を主なテーマとし、われわれの自意識の基盤とされる文化の思想を文化人類学、民俗学を中心に読み解いてみる。
メディア社会学特論	上ノ原　秀晃	現代の社会事象を解釈し、分析する上で、メディアの存在は無視できない。また、メディア自体も、社会のあり方の影響を強く受けている。本演習では、こうしたメディアと社会の相互作用を、社会学・社会心理学の理論・モデルを用いて考察する。具体的には、メディア効果論、メディア文化論、ジャーナリズム論などの領域を取り扱う。テキストと論文を合わせて読み進めていくが、取り上げる論文は受講者の関心に応じて決定したい。
人格心理学特論	大木　桃代	日常生活において他者との良好な関係性を構築するためには、自他のパーソナリティと行動の理解が必要とされる。この授業では、パーソナリティおよび関連する諸概念の機序を理解し、様々な行動との関連性を検討することを目的とする。さらに人格心理学の概念を通して、多方面からの人間科学的アプローチを身につけることも期待する。数名のグループでデータを収集・分析し、論文を作成するという過程を通して、人格心理学に対する実践的な視野を広げることに加え、心理学領域の論文の執筆方法についても学習する。
デザインの心理学	増田　知尋	コミュニケーションを円滑に行うためには、情報を適切に伝達することが不可欠である。情報をよりわかりやすく、より正確に伝えるためには、情報をただ表示するのではなく、その情報を受け取る側の認識の特性を考慮したデザインが不可欠となる。 この授業では、情報を受け取る側の人間の認識の特徴を中心として、心理学で研究されてきた知見を学んだ上で、それらを日常的にどのように活かしていくことができるのか、社会における効果的なデザインの利用について考えていく。
生命倫理特論	宮下　　毅	科学の急速な進歩とその技術的な応用によって生じる生命倫理に関する諸問題は、医学、看護学、倫理学からだけでなく、心理学、福祉学、社会学からも議論されている。同時に、新たな科学技術の人間への適用および社会での受容という側面からは、基本的人権の尊重の視点からも検討されなければならない。 本授業では、生命倫理に関する主要な論点について、欧文文献を講読し、知識を深め、議論を行う。具体的には、生殖に関する問題（生殖補助医療、人工妊娠中絶、不妊処置）、遺伝に関する問題（出生前診断、遺伝子治療、遺伝子研究）、死に関する問題（死の定義、生命維持治療、医師に援助された自死）、臓器移植、臨床研究などを扱う。